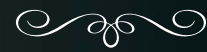


新・春をはこぶコンサート
8年連続コンサート Vol.II

伊藤 恵

ピアノ・リサイタル
Shubert & Chopin



2009年4月29日(祝・水)
14:00開演

浜離宮朝日ホール

(大江戸線「築地市場」駅A2番出口)

Wednesday, April.29th 2009, 2:00 P.M.
Hamarikyu Asahi Concert Hall

ショパン：3つのマズルカ op.50
3つのマズルカ op.56
3つのマズルカ op.59
シューベルト：ソナタ イ短調 D537
ショパン：4つのマズルカ op.67
4つのマズルカ op.68
シューベルト：さすらい人幻想曲 ハ長調 D760

Kei Itoh Piano Recital

入場料: ¥4,000 (全席指定)

主催: ㊦ 梶本音楽事務所 協力:(株)フォンテック

発売日: 11月8日(土) 10:00~

 **ガジモトイープラス 0570-06-9960**

*音声自動応答で承りますが、オペレーター(10:00~18:00)もご選択いただけます。

<http://kajimotoeplus.com>

●チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード307-625)

●e+ (イープラス) <http://eplus.jp/>

●朝日ホールチケットセンター 03-3267-9990

コンサートに寄せて

音楽は祈りであり、踊りである、と言ったのは誰だったか。

ショパンのマズルカ、そこにあるのはポーランドの踊り、

そしてショパンの祈り。

本当に若い時から晩年、白鳥の歌となる最後の作品まで

生涯に渡ってマズルカを書き続けたショパン。

どの作品にも祖国への想いに溢れ、愛に溢れ、

誰とも分かち合うことのない悲しみに溢れ……。

人は分かち合えないものを孤独と呼ぶのか。祖国を離れても、

マズルカを作曲することによって、

心は故郷に帰っていたのではないか。

異邦人としてのショパン。一方シューベルトは故郷ウイーンを

一度も離れることはなかったのに、心はさまよいきすらう。

彼もまた、誰とも分かち合うことのできぬ悲しみを抱えて。

Kei Itoh Piano Recital

伊藤 恵 (ピアノ) Kei Itoh, Piano

©A.Muto

幼少より有賀和子氏に師事。桐朋学園高校を卒業後、ザルツブルグ・モーツァルテウム、ハノーファー音楽大学において名教師ハンス・ライグラフ氏に師事する。1979年エピナール国際コンクール第1位、1980年J.S.バッハ国際音楽コンクール第2位、クルト・ライマーコンクール第1位、1981年ロン＝ティボー国際音楽コンクール第3位及び特別賞と数々のコンクールに入賞した。

1983年第32回ミュンヘン国際音楽コンクールピアノ部門で日本人として初の優勝に輝き、サヴァリッシュ指揮バイエルン国立歌劇場管弦楽団と共演、ミュンヘンでデビュー。その後もミュンヘン・シンフォニカ、フランクフルト放送交響楽団、ベルン交響楽団の定期公演に出演。日本では「若い芽のコンサート」でNHK交響楽団と協演、その後大阪フィルハーモニー、東京都交響楽団とのヨーロッパ・ツアー、日本の主要な

オーケストラと協演を重ねている他、リサイタル、室内楽などにおいても積極的な活動を展開。ピアニストとしてその地位を着実に築いている。

録音では、ライフワークとしてシューマンを追い続け、これまでに「シューマニアーナ」1～13(全曲録音)、「ブラームス:ピアノ協奏曲」、「ショパン:エチュード」、「ピアノ通信1」、「プーランク:ピアノ作品集」、フルネ指揮東京都交響楽団との「ブラームス第2番/ラヴェル:ピアノ協奏曲」、最新版として「シューベルトピアノ作品集1」がフォンテックからリリースされている。1999年3月より8年にわたり、毎年シューマンを中心にしたリサイタルを開催、高く評価された。2008年からは、シューベルトを中心にしたリサイタルを開始。1993年日本ショパン協会賞、1994年横浜市文化賞奨励賞受賞。2003年より東京藝術大学准教授。